活動通じ真の統一を

民学同第六回大会ひらく

【大阪】民学同第六回大会は三月二十日、数百人が参加して大阪で行なわれた。熱烈な討論がなされた。「可能なかぎりの統一戦線」を全国の大衆的闘争の中でつくりだそうという提案がかなりの賛成をえたことが注目をひいた。また大会は「医局の民主的再編成」「学園の民主化」「教育費国庫負担制度の確立」「戦争と学生」などについて討論がなされた。討論をつうじて運動を組織し発展させることが強調された。これを実践するためには、現在全国に次第に増えつつある各大学の民学同支部の強化と、支部間の連絡を密にすることが必要である。

大学医局の成り立ち

戦前、日本政府の帝国主義侵略のための医療と直接には結びつかない医学研究、医学教育の大学本来の使命をまっとうさせるためにできるだけ政府の干渉を排除しようとした運動と古い医局制度の改革運動とは、現在古い医局制度の下で大きな役割を果たした。戦前は大正十年、学位（博士号）制度を改正、博士号という"権威"を大学教授が与えるというかたちで医学部卒業者を大学に残し、研究修練をさせることによって医学博士の数は重要なポストを独占する基礎条件となった。（医局）とは、研究室を中心とする医局員の集団のことで、教授を頂点に助教授、講師、副手、医局員（大学院生）という序列をもつ封建的な組織である。

戦後の変化

敗戦、日本軍国主義の崩壊とともに医学界にも大きな変化がおこった。軍閥と結びついた医学者の追放、軍国主義教育の廃止、医学教育の民主化などがそれである。医局制度についても、戦後の民主化の中で、医局の封建的な性格を改めようという動きが強まった。

医局内の動き

大学病院医局内では、教室を主宰する教授を頂点に、助教授、講師、副手、医局員（大学院生）という序列があり、医局員は教授の命令に絶対服従の関係にあった。医局員は教授の命令で地方の病院に派遣されたり、研究室の雑用をさせられたりした。医局員は教授の命令で地方の病院に派遣されたり、研究室の雑用をさせられたりした。医局員は教授の命令で地方の病院に派遣されたり、研究室の雑用をさせられたりした。

医局をめぐる二つの運動

戦後の民主化の中で、医局制度の改革をめざす運動がおこってきた。一つは、医局員の待遇改善をめざす運動で、昨年末、大学病院の医局員の待遇改善をめざす運動が組織された。

進むべき方向

❶大学病院医局と、病院の外来診療の費用徴収をめぐる問題。医局員の待遇改善と、大学病院の医局制度の改革とは、密接な関係にあるが、この二つの問題は、別々に解決されるべきものである。

❷大学病院医局と、病院の外来診療の費用徴収をめぐる問題。医局員の待遇改善と、大学病院の医局制度の改革とは、密接な関係にあるが、この二つの問題は、別々に解決されるべきものである。

そくそく成果

新刊